

水産大学校研究報告 70巻1号 正誤表

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2015687

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



【70 巻 1 号正誤表】

4p 左パラグラフ 14 行目の後に追加

塩分は中津川河口, 三百間と西側のサイトで高く, 東浜, 大新田の東側のサイトで低い傾向を示した。
地中温度は中

4p 右パラグラフ 15 行目の後に追加

g と種数, 個体数, 総バイオマスが最も少なく, クーマ科 *Diastylidae* sp. やコケゴカイ *Ceratonereis erythraeensis* が優占した。中津川河口は 21 種 477 個体 11.67 g で個体数が最も多く, クーマ科とニホンドロソコエビ *Grandidierella*

4p 図 誤: Fig. 1. 正: Fig. 2.

5p 右パラグラフ 12 行目の後に追加

意に低かった。

次に, マクロベントスの分布と物理環境の関係を調べるために CCA 解析を行った (Fig. 5)。その結果, 第 1 軸の固有値は 0.56 (寄与率 46.4%), 第 2 軸の固有値は 0.42 (寄与率 35.2%) であり, 両軸でマクロベントスの分布データから得られた全分散 (total inertia) 1.201 の 81.6% を説明した。固有ベクトルが第 1 軸に対して正の向きであったのは地中温度と栄養塩類 (リン酸態リン, アンモニア態窒素) であり, それ以外の環境要因は負の向きを示した。各種のプロットの座標上の位置をみると, 中津川河口と三百間で優占したホトトギスガイ *Arcuatula senhousia* やニホンドロソコエ